

台風災害時の全面的な協力に対し

宮坂建設工業に感謝状

農地被害空撮し状況分析

芽室町農協

【帯広発】宮坂建設工業（株）（帯広、宮坂寿文社長）は、二月二十五日、芽室町農業協同組合（JAめぐろ、辻真代代表理事組合長）は、昨年の台風災害時への全面的な協力に対し感謝状を授与した。

昨年八月末の台風10号により、十勝管内ではインフ

ラはもとよの農作物なども甚大な被害が生じた。とくに農業関係は生産の根底となる農地の流出などといった壊滅的な状況も表面化した。

JAめぐろでも大雨被害後、すぐに全体の被害状況を把握すべく、迅速で正確な状況を知るため、宮坂建設工業へ一連の業務を依頼。同社はドローン機を



宮坂社長（左）に感謝状が贈られた

て説明に当たったという。

威力により、現地視察に訪れる面々へもこれらを用いて説明に当たったという。

使い、激甚指定された農地百四拾のうち、特に被害が大きかった三〜四割相当分を空撮、すぐに状況を分析し成果品を提出した。

JAめぐろは、空撮で鮮明になった画像から地域の現状を確認。「言葉での説明よりも上から撮影した一枚」（宇野克彦代表理事専務）の

宮坂建設工業とJAめぐろとの付き合いは長く、特に同社が広島市土砂災害避難支援隊を派遣した二十六年八月には、炊き出し用のトウモロコシとジャガイモを無償提供していた。

当日は、JAめぐろから宇野専務と野澤亮管理部長が同社を訪問。宇野専務が宮坂社長に対し、感謝状を手渡した。

これに対し、宮坂社長は謝意を示すとともに、「有事に際して万全を期したい。どんなことにも対応できるようにしていきたい」と約束していた。

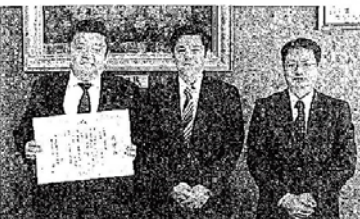
台風被害把握で感謝状受ける

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）は25日、台風10号の被害状況把握に貢献したことに對し、芽室町農業協同組合から感謝状を受けた。写真。

芽室町は昨年の一連の台風被害で、100畝以上に及ぶ被害が発生した。芽室町農協では9月初旬に、被害状況把握のため、同社に空撮を依頼。被害箇所3割近くをドローンで撮影した画像は、被害報告などで幅広く利用した。

同日は宇野克彦代表理事専務と野澤亮管理部長が帯広市内の同社を訪



問。宇野専務は「上空からの撮影が一番状況が分かる」と話し、実際の被害の様子を正確に伝えられたと感謝した。感謝状を受け取った宮坂社長は「今後も有事に備えて万全を期していきたい。また復旧途中だが、再び要請があれば対応したい」と話した。

坂寿文社長は「今後も有事に備えて万全を期していきたい。また復旧途中だが、再び要請があれば対応したい」と話した。

ドローンで被災調査 宮坂建設に感謝状 JAめむろ

宮坂建設工業 帯広、宮坂寿文社長は25日、昨年の台風10号発生後に被災状況の把握に尽力したとして、JAめむろ（壮勇組合長）から感謝状を受け取った。

同社は昨年8月の台風10号発生後、同JAの要請を受けて小型無人飛行機「ドローン」を同町上空に飛ばし、迅速な情報収集に協力した。同JAでは、空撮された画像を基に被害状況の把握に努め、国会議員らが視察に訪れた際には、説明用の資料として活用した。この日は同JAの宇野克

彦代表理事専務と野澤亮管理部長が同社を訪れ、宮坂社長に感謝状を手渡した。宇野専務は「上から見た画像は状況がよく分かり、説明をする際にも役立った」と感謝し、宮坂社長は

「今後も有事に備え、われわれも万全を期していきたい」と話していた。
(中島佑斗)



感謝状を受けた宮坂社長と宇野専務、阿部浩之同社常務（左から）